

2019年8月25日(日)朝10:10～
8月第4共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第12、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**断食するとき②**(17節)

聖書：マタイ 9章14～17節

＜口語訳＞

新約聖書13～ 頁

マタイ 9章14～17節

＜新共同訳＞

新約聖書15～16頁

マタイ 9章14～17節

＜新改訳第3版＞

新約聖書15～16頁

マタイ 9章14～17節＜塚本訳＞

新約聖書90～91頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き
によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:14～17**は、**パリサイ派**の人々が、**断食日**に断食しているのに、**断食**をせず、**マタイ**を含む**取税人(徴税人)**の家で、「**御子イエス・キリスト様**」は、**歓迎宴会**を持っておられ、**パリサイ派**の人々から**非難**を受け、「**御子イエス・キリスト様**」が、**婚礼**の席で**断食**をするのは、**花婿**に失礼ですし、さらに、**婚宴**にだされる**葡萄酒**を取り上げ、**祝い**の**新しい葡萄酒**は、**新しい皮袋**(新しい教え)入れるべきだと、語られたのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**マタイ5:16～18**でも、**断食**のことを**3大善行**(祈り、施し、断食)の1つとして、**善行**は、**隠れて**いて**御覧**になっている**神**に前すべきで、**人**の前で、**見せびらかし**に行うものではないと、語られていました。

本論；

◇本日、**マタイ書9章14～17節**から主の**使信**に **思い・心**νοῦςをとめます。

◆**マタイ9章14～17節**；使徒**マタイ**は、贖罪日という聖書の定める「**断食日**」を「**御子イエス・キリスト様**」が**取税人(徴税人)マタイの家**と思われるところで、**宴会**を持ち、**神の権威**のもと定められた定めを破っておられたのが、「**罪人を招く主(13節)**」の**新しい福音(17節)**と示しています。

◇**14～17節**；塚本訳◆**断食問題**

「14 そのあと、洗礼者ヨハネの弟子がイエスの所に来て言う、「わたし達とパリサイ人とは断食をするのに、なぜあなたの弟子は断食をしないのか。」

15 イエスは言われた、「婚礼の客は花婿がまだ一しょにいる間に、(断食をして)悲しむことが出来ようか。しかしいまに花嫁を奪いとられる時が来る。すると彼らは(いやでも)断食をするであろう。

16 真新しい布切で古い着物に継ぎをする者はない。当て切は着物をひきさき、裂け目はま

すますひどくなるからである。

17 新しい酒を古い皮袋に入れることもしない。そんなことをすれば、皮袋が破れて酒は流れ出し、皮袋もだめになる。新しい酒は新しい皮袋に入れる。そうすれば両方とも安全である。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**14節**；「そのあと」、「洗礼者ヨハネの弟子がイエスの所に来て言う、『わたし達とパリサイ人とは断食をするのに、なぜあなたの弟子は**断食**をしないのか。』」と、「**断食問題**」の議論の議題を提議したのです。

⇒中世に宗教改革の発端になったマルチン・ルターの95箇条提題も論議をして真相を解明したいというもので、大事な問題提議でした。

⇒パリサイ派の人々の問題提起が、抱えていた課題は、真相解明ではなく、「**神の御子イエス・キリスト様**」を罫にかけて、自分たちの律法解釈の範囲内に置こうとしたことです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、2つの問題提起をして、公正な議論の方法を示されたのです。

- ⇒最初から結論ありきの議論は、良い結論を築きあげることができません。
- ⇒慰安婦問題も、優遇国から除外する問題も、原発問題も、名古屋の芸術祭問題も、提起された問題が真相解明を目指しているのか、自分の立場を有利にするためなのか、不明だと、真相を積極的に解明できません。
- ⇒教会内の問題では、礼拝、奉仕などを問う時、なぜ、これらを明治、大正、昭和、平成、令和の時代の中で守って、120年以上、歩んで来た意味を議論しないでは、すべての議論をすることが困難で、議論することも、空しくなります。
- ⇒アライアンスは、「**御子イエス・キリスト様の再臨**」を前提に、信仰の先輩たちよると、**マタイ28:19~20等**の福音宣教命令を遂行の教会の足の裏の役割を果たしたいということでした。最初の宣教団体(C&MA)は、教会組織は作らず、「救い主、癒し主、潔め主、再臨の王・主の主」の4つの福音を強調して、世界に出て行って、宣教したのです。1912年以降は、アメリカのミッションも、信仰箇条を持つ教団になりました。

◇**15～17節**；①「イエスは言われた、『婚礼の客は花婿がまだ一しょにいる間に、(断食をして)悲しむことが出来ようか。しかしいまに花嫁を奪いとられる時が来る。すると彼らは(いやでも)断食をするであろう』(15)、②「『真新しい布切で古い着物に継ぎをする者はない。当て切は着物をひきさき、裂け目はますますひどくなるからである』(16)」、「『新しい酒を古い皮袋に入れることもしない。そんなことをすれば、皮袋が破れて酒は流れ出し、皮袋もだめになる。新しい酒は新しい皮袋に入れる。そうすれば両方とも安全である』(17)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「2つの問題提起をされました」、「1つは、婚姻における花婿の存在」、「2つ目は、着物補修と葡萄酒の皮袋」の「実物と教育です」、「そのあと」(14)、すなわち、嵐を権威で静め、中風の人を癒し、**取税人(徴税人)マタイの招き**等の一連出来事後と、その関連の出来事の続きで、主の**権威ある業**に反発したパリサイ派の人々の行動の中で、花婿と着物補修、葡萄酒の皮袋の実物教育がなされたのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、年1回、第7の月の10日の贖罪日の**断食**が、「身を悩ます」表現であり、罪を悔いて、悲しむ日であることを承知で、「婚礼の客は花婿がまだ一しょにいる間に、(断食をして)悲しむことが出来ようか。しかしいまに花嫁を奪いとられる時が来る。すると彼らは(いやでも)断食をするであろう」と語られたのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「身を悩ます」中風の人を癒し、ユダヤ人の政敵であった**取税人(徴税人)マタイ**を招くことは、「**断食**」しなくてもよくなったので、「喜ぶ」時だったのです。律法の専門家を自称するパリサイ派の人々には、分かり切ったことでしたから、本音を隠して、嫉妬から非難をしていて、主は見抜かれていたのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「しかしいまに花嫁を奪いとられる時が来る。すると彼らは(いやでも)断食をするであろう」と、悲しみ、悩み、悔い改める「**真の贖罪日・断食日**」、すなわち、主の十字架の死の日が近づいていることを暗示されたのです。

⇒当時の厳格な**断食**でも、安息日には行われず、律法上は、贖罪日以外で、**断食する**のは、本当に悔いて、悲しむ時でした。多くの**断食**は、見せかけのものだったのです。

⇒「新しい皮袋」、「真新しい布切れ」は、キリスト者の全く新しい、喜びの生活の到来を予告する福音で、罪人扱いされ、差別されて来た**取税人(徴税人)**らに最もふさわしい知らせで、**断食**には、**似つかわしくない**ものでした。

⇒婚礼、着物、皮袋は、婚礼の一連の出来事でもあるのです。当時、派手な婚礼が多かったのです。主は、それを戒めつつ、霊の着物と涙でなく、喜びの皮袋を持って、花嫁なる教会として、再臨の日に来られる真の花婿を歓迎してほしいと、「**御子イエス・キリスト様**」は、願われたのです。

⇒**SY師**によれば、通常、葡萄酒は発行力が強く、壺か桶で保安され、1週間か、10日後でも、弾力性のある皮袋でないと葡萄酒は入れることができなかったそうです。主は、当時の状況をよく理解し、中身が生き生きとした酒、キリスト者の生き生きとした生活を暗示された。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓(説教)**の箇所です。
- ◇本日の**マタイ9:14～17**は、パリサイ派の人々が、断食日に断食しているのに、**断食**をせず、**マタイ**を含む**取税人(徴税人)**の家で、「**御子イエス・キリスト様**」は、歓迎宴会を持っておられ、パリサイ派の人々から非難を受け、「**御子イエス・キリスト様**」が、婚礼の席で**断食**をするのは、花婿に失礼ですし、さらに、婚宴にだされる葡萄酒を取り上げ、祝いの新しい葡萄酒は、**新しい皮袋(新しい教え)**入れるべきだと、語られたのです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、**マタイ5:16～18**でも、**断食**のことを3大善行(祈り、施し、断食)の1つとして、善行は、隠れていて御覧になっている神に前ですべきで、人の前で、見せびらかしに行うものではないと、語られた。

⇒主は、花婿として来られることは、旧約聖書
ホセヤ書2:20で預言されています。ユダヤ
人、パリサイ派の人々の 知るところでした。

⇒礼拝、奉仕、建物など、多方面に亘って、創造
的な表現ができるとも、**SY師**は書き残し、
「新しい葡萄酒は、新しい皮袋に入れる」べき
であります、と語っておられます。

⇒ホセヤ書2:18～20を口語訳で読みます。

【口語訳】

18 その日には、わたしはまたあなたのために
野の獣、空の鳥および地の這うものと契約を
結び、また弓と、つるぎと、戦争とを地から
断って、あなたを安らかに伏させる。

19 またわたしは永遠にあなたとちぎりを結ぶ。
すなわち正義と、公平と、いつくしみと、
あわれみとをもってちぎりを結ぶ。

20 わたしは真実をもって、あなたとちぎりを
結ぶ。そしてあなたは主を知るであろう。